

# 未来に伝えたい「まいばらの水」12選

米原には、深い山々が育んだ米原の美しい水が残されています。このコーナーでは、「未来に伝えたい」まいばらの水」に選ばれた湧水や、地域と水との関わり、水に関する話題についてお届けします。

## 水の力を利用した知恵

東日本震災以降、再生可能エネルギーとして水力発電が見直されています。水は昔からエネルギーとして利用されており、伊吹では出雲井の井水路のかたわらにあった直径6メートルの巨大な水車で菜種油が製造されていたり、能登瀬では天野川の水流を利用した水車で小麦が製粉されたりしていました。かつて甲津原集落にたくさんあった米やそばをつくための「唐臼小屋」や、水の力で芋の皮をむく「芋水車」などもその一つです。

小水力発電の先駆けとしては、醒井養鱒場が霊仙山の湧水を取水し、昭和4年〜昭和27年頃まで発電（最大15kW）を行っていました。また、大規模なものとしては、姉川を利用した水力発電があります。大正3年、吉槻に建設された「姉川発電所（出力615kW、昭和19年廃止）」はその先駆けで、この発電所により曲谷、甲賀、吉槻には滋賀県で2番目に電気が灯りました。電力需要の増加に伴い建設されたのが、「小泉発電所（昭和6年発電開始、出力966kW）」と「伊吹発電所（昭和15



▲ かつて甲津原集落に多くあった唐臼小屋の跡

年完成、出力5400kW）」で、昭和50年頃までは旧伊吹町内全域に電力が供給されていました。小泉、伊吹発電所は現在も稼働しています。今のシステムは、原子力というリスクを伴ったものであり、また電気を遠くで大量につくって遠くまで運ぶ供給方法が主流ですが、これからは自然エネルギーを活用し、地産地消の電力供給が主流となってくることも予想されます。市内には姉川や天野川をはじめ、たくさんさんの河川や農業用水路が存在しており、これらの水は持続可能なエネルギーとして、大きな可能性を秘めているのではないのでしょうか。



◀ 醒井養鱒場で利用されていたタービン型発電機（醒井養鱒場提供）



◀ 姉川発電所跡



▶ 現在も発電を行っている「伊吹発電所」▶

vol.19



まいばらの水  
イメージキャラクター  
スイナちゃん

お問い合わせ 経済環境部 環境保全課（伊吹庁舎） ☎58-2230 📠58-1630